クラブ在籍20年以上の

会員メッセージ

森本　茂雄　会員

1983年6月入会

ローターリークラブのロの字も知らない私に、勤め先の城西クラブ会員の先輩から、「クラブは出席が大切だけれど」の一言だけ云われて、この比クラブが設立された時、チャーターメンバーとしてこのクラブに入会しました。

私の仕事は、建設業の営業で、出張が多く出張先の東京その他のクラブでの出席が重なり、特別代表の平野会員から「マイクラブの出席が30%以上でないと除名だぞ」と注意されたこともありました。

30本は皆出席しましたが、その後はコロナで皆出席は途絶えました。

50歳で入会し、今91歳で40年余りローターリー会員が続いています。

岩崎　明弘　会員

1983年6月入会

福岡北クラブの特徴と魅力

当クラブは1983年福岡城西クラブをスポンサークラブとして新しく設立されました。設立に関与されたキ平野桂樹特別代表は当クラブ発足時の記念事業として、「樹を育てるより、人を育てよう」というテーマを掲げられ、また同じく当クラブの設立に関与された新家忠男パストガバーナーは、ガバナー時代に2700地区に初めてRYLA(ロータリー青少年指導者養成プログラム)を創設されたロータリアンです。

当クラブはこの二人を核にして発足したもので当北クラブの底流には、「人を育てる」という精神と奇策に伝統が脈々と流れているのであります。

「樹を育てるよりも・・・」という文言が誤解されたこともありましたが、本当の意味は、「何十本、何百本の樹を育てることも本当に立派なことです。しかし、何人かの子供が健やかに育つことは、もっともっと、より大きな社会の財産になるのではないかろうか。子供達が健やかに育ち人のため社会のために育ち、貢献できるようになれば、何万本もの植樹にも勝り地球への優しさになるということであります。

ロータリーが倫理向上運動である以上、子供や青少年をはじめ「人を育てる」ことは当然のことであります。ロータリーは倫理を提唱することによって、人を育てなければなりません。

今から約40年前、マレーシアの首相は「LOOK EAST」つまり、東方に学べと言いました。東方に何があるのか日本があるのです。日本を見習おう。そして追いつき追い越そうといったのです。

日本は原爆を受け敗戦のどん底から、戦後、経済大国を築き上げたではないか、あの日本を見習おうと言って努力したのです。そして、マレーシアは建国の基礎に教育を置き、学校の先生達を優遇し教育者を大事にし、人間としてあるべき姿を教える先生は、マレーシアでは、大臣と同じくらいに尊敬されているというのであります。

ところが、20年位前からマレーシアは「NOT FOR THE EAST」(日本の真似だけはするな)と言い出しました。

(次ページへ)

今日、日本では青少年問題は危機的状況にあります。日常茶飯事のように人が殺されています。親が子を殺し、子が親を殺す。若い青少年が老若いた老人から指引込め詐欺によって金を詐取したり、事業継続資金を不正に受給したり、誤送された多額の金を返還しないでネットカジノで使う等、人間の倫理どいうものが、失われてしまっています。

戦後の日本の教育は、道徳や倫理を教えないで、知識を教える「知育」だけを大切にして、道徳を教える「徳育」を忘れています。この倫理教育の欠如と空白が一つの原因となっており、今や人を育てる必要が痛感されています。

ロータリーは倫理向上運動でありますからロータリークラブは、国の将来のために、青少年を育てる責務があり、我が北クラブが先ほど述べたように、慈流に、「人を育てる」という精神と思想を掲げて発足し、現在も人を育てることに重点を置き取り組んでいることは、数多いロータリークラブの中でも実に、素晴らしいクラブであり、当クラブの特徴であり、魅力であると思います。

ただ、ここで最も重要なことは、このような素晴らしいクラブの会員としてどう在るべきかつ、ということです。人を育てるためには、それにふさわしい会員になることが必要であります。言い換えるとロータリアンとして自ら研鑽を重ね、心を磨き自ら倫理を向上させることに努めなければなりません。

その為に、ロータリアでは毎週一回例会に出席し、互いを高めあう楽しさを体験するため、親睦を第一とし、自己改善と自己研鑽の場として、また親睦の場として、例会出席を重視しているのです。親睦のためには先ず楽しくなければなりません。

楽しむために、酒を飲んだり、ゴルフをしたり、麻雀やカラオケで歌を歌ったりして親睦を重ねています。

ただ、このような親睦は、ロータリー以外の諸々の団体や同好会、仲良しクラブや反社会的な団体にもあります。そのような楽しみも必要ですが、このような感性的な親睦とロータリーの親睦とどこが違うのか？

ロータリーの親睦はそのような親睦だけではなく、己の足らざる所を切磋琢磨し互いに学び高め合う親睦で「親睦を以て奉仕のこを作る」奉仕を作るための親睦」でなければならない。つまり、親睦のエネルギーをもって世のため人のために、他の団体が果しえない方法で奉仕のこを救済しようということが定款5条のロータリーの目的に書かれています。

例えば、芋を桶の中に入れてかき混ぜると芋と芋がこすれ合って皮がむけて磨かれていくようにロータリアン同志がクラブの中で磨かれていくというような親睦であります。

当クラブは、古い会員や新しい会員、及び年齢などにによる上下の関係や、決潤なく、全て会員は横並びの原則で、平等でありロータリーは人の上に人を作らず、人の下に人を作らず、という親睦の原点をこれまでー貫して来ているところに、もう一つの特徴と魅力があります。

中西　勇次 会員

1983年6月入会

ええ年寄になりなはれ

ボケたらあかん長生きしなはれ　泣きごとに　人の陰口　ぐち言わず他人のことはほめなはれ　いつでもアホで居りなはれ　若い者には花もたせ一歩さがっておることだ　いずれお世話になる身なら　いつも感謝を忘れずにどんな時でも　へえおおきに　お金の欲は捨てなはれ　生きてるうちにばらまいて　山は乞徳を積みなはれ

昔のことは忘れなはれ　自慢ばなしに　わしらの時は　鼻もたならぬ烏合衆　わが子に孫に世間さまどなたからでも慕われる　ええ年寄りになりなはれ　ボケたらあかん　そのために　何か一つの趣味もってせいぜい長生きしなはれや

（作者不詳）

小副川 浩二 会員

1983年6月入会

あっという間の40年！

1983年6月に50名のチャーターメンバーでスタートして40年が経過しました。最初の一年間16名のロータリークラブ経験者のお導きで「ロータリーとは？」のテーマで毎週ロータリー勉強会のような気持ちで出席していたことを思い出します。

自分自身は36歳で入会し、ロータリー経験もまったく無く戸惑うことが多かありましたが、幸いにも北ロータリークラブ会員の平均年齢は49.6歳と若く福岡で11番目のロータリークラブとして誕生し「手作りのクラブ」を目指しており例会時も楽々しく、和やかで会員同士のフレンドリーな雰囲気がありました。

クラブのテーマは「青少年育成」で創立翌年の1984年にはボーイスカウト福岡第14団の立ち上げを行い現在も支援活動を行っております。それからもRYLA活動や若楠基金を通じて青少年の育成事業を継続して今日に至っております。

福岡北ロータリークラブは10周年、20周年、30周年、そして40周年を通過点に更なる飛躍を遂げ、福岡北ロータリークラブ50周年に向けて前進することを願っております。

村上 泰之　会員

1983年7月 入会

本記念誌へのご寄稿をお願いしておりましたが
大変残念ながら　去る1月2日に天国へ旅立たれました
当クラブへの　ご生前のご功績に対し
深甚なる敬意を表しますとともに心から哀悼の意を捧げます

三嶋 隆夫　会員

1983年9月 入会

童謡、唱歌が好きな私は今でも気が付けばロザさんでいる時がある。

幼稚園から小学校の頃、母が掃除や洗濯(当時は洗濯板だった)の時、歌っていたのを聞いていつの間にか好きになったんだと思う。

7～8年ほど前に会長をやった時、ロータリーソングは月初の例会だけ、あとは童謡唱歌にしてもらった。歌う前に多少の解説をする。

音楽的には全く分からないが歌詞が好きで今でも調べたりしている。

フランス菓子16区では電話の保留音を季節に合った童謡唱歌にしている。

選曲はもちろん私。
年に数回ほどだがご予約などご用件が終わったあともオペレーターに保留音を聞かせて下さいとおっしゃって5分程聞いていらっしゃる方もいる。

報告を受けたときは嬉しくなる。
会社の新年会や新人歓迎会でも最後は皆んなで肩を組んで「ふるさと」を斉唱する。3番の「志をはたして、いつの日にか帰らん・・・」ここでぐっとくる。

これからも童謡 唱歌は大事にしていきたいと思う。

貞弘　賢治　会員

1985年1月入会

福岡北 RC 創立 40 周年にあたり

私が福岡北RCに入会したのはクラブ創立後約1年半のことです。以来10周年、20周年、30周年そして40周年を経験することになり、その間多くの会員との出会いがあり、そして様々な別れがありました。福岡北RCの特長は年齢、ロータリー歴、業種、役職にかかわりなく相互の職業に対し敬意を持って接していることにより、我々くくれしみのある雰囲気が作り出されていることだと思っています。

私のクラブにおける活動は何もわからないまま入会後4年でSAAに選任されたことに始まります。それから6年後には当クラブが初めて地区大会のホストクラブを引き受けた際に前幹事になり開催間もないアクロス福岡を開催場所に2年間手探り状態で奔走し、最終段階で会員が結束し地区大会を盛会裡に終えることができたことは懐かしい思い出です。

その後世代交代の流れのなか20周年ではクラブ幹事を務めました。2010年にはクラブ会長としてホテルニューオータニ博多への例会場移転に伴う事務局移転等をはじめ円滑な例会運営の体制づくりに努めました。その年の秋には姉妹クラブの台湾高雄中興RCへの表敬訪問の団長として熱烈な歓迎を受けたことは記憶に残る楽しい思い出です。2011年3月11日の金曜日の例会日に発生した東日本大震災は忘れられないできごとでした。

私は60歳を過ぎたころから目の病気のため視力が少しずつ弱まり日常生活に支障が生じておりますので40周年を機にロータリー活動にピリオドを打つことにしました。これからも福岡北RCがその特長を大切にしながら楽しいクラブであることを願っています。

梶原　正成　会員

1989年4月入会

福岡北ロータリークラブに入会させていただき、早いもので34年が経ちました。34才で入会しましたのでちょうど人生の半分をロータリーで過ごしたことになります。

私は入会間もない方に「ロータリーを長く続けることはそれ自体が自分自身にとって一つの勲章ではないかろうか」と申し上げることがあります。

ロータリーを続けることができるということは、自分自身の社会生活（例えば会社の経営など）が健全であり、なおかつ一番大事なことですが健康であるということです。

その両輪があってこそロータリー活動を続けることができるのです。ロータリーを10年、20年と長く続けられるということは、人生を頑張って生きているという一つの証ではないでしょうか。

此ロータリーはこの40年間、決して平坦な道のりではなく、紆余曲折がありました。それだけに他のクラブにない強い結束と和やかな雰囲気があります。どうかこのクラブで一年でも長くロータリー生活を楽しまれてください。

大塚　弘　会員

1991年3月入会

節目の年を振り返ってみますと、20周年で若い会員を中心にした座談会に出席しクラブの将来について語り合ったこと、30周年でボーイスカウトの子どもたちと一緒に30キロハイクに参加した日々がこの前のことのように思え、月日が経つのは本当に早いと感じております。

今年度はロータリーソングの指揮を担当しています。

北クラブに入会して最初に所属したのが、ロータリーソング委員会（現 クラブ管理運営A委員会）でした。

当時ソング委員長の代わりに急遽、ガバナー公式訪問の時にぶっつけ本番で初めてタクトを振り、失敗して落ち込んだ事も、今では良い思い出です。

ロータリー活動を通じて良い出会いに恵まれ、様々な経験を重ねて成長することができました。

大浦 純平　会員

1993年9月入会

クラブ創立40周年、慶賀に堪えません。

1993年9月に入会し約30年が経過した今、多くの知己に会え、実に多くの経験を積ませて戴いたことを思うと、私の人生にとって、ロータリーライフとは掛け替えのないものであると感じています。

特に2013年、「創立30周年」の年度に会長を仰せつかり、会員の絶大な協力を頂き記念事業を全うできたことは誇りと思っていることです。

今回、40周年の祝賀が催されるに当たり、会員が一致協力し豊かと評価されている姿を見るにつけ心より頼もしさを感じています。その中で私が2003年の20周年の折に携った「子どもたちへ」が復刻されて再び子ども達に読んでもらえることとなったことは嬉しい限りです。

私は2001年から2002年のころ職域の仲間とインドを旅した事がきっかけで、インド・チェンナイに保育施設を作る事業を立ち上げ、完結しました。

その際、2700地区のWCS関係会員に多くの貴重なご意見を戴き、とても参考となったことを忘れもしません。ロータリアンとして誇りに思うことでした。

「人を育てよう」の精神が息づいている当クラブの会員であることは、まさに仕事で「子ども達を育てている」私にとって大変居心地の良いことです。

お役には立てないと思いますが、後ろばらくお仲間で居させてもらおうと思っています。どうぞ宜しくお願い致します。

岐部　定則　会員

1993年10月入会

40周年を迎えてのメッセージ

いつの間にか福岡北ロータリークラブに加入して20年経過しましたが、何もクラブの為に役に立ってない不肖の会員であった事を今になって反省しています。

ただ当たり前ですが、会費だけは年に4回キチット遅れる事なく支払ってきました。

反面小生にとっては北クラブに加入させてもらって、人間的に大へん魅力のある立派な会員にも出逢う事ができ、さらに友達も増えて、実りあるものになっています。

中でも役のテーブル会の存在は良くできたシステムであり、これがなかったらロータリーの魅力は半減します。

小生も今年の10月で83歳になる予定です。

これからは背筋を伸ばしお洒落にも心がけ、歩幅を狭めることなく歩んで参りたい。皆様の一層のお近付きをお願い致します。

井上　賢司　会員

1997年 1月入会

福岡北RCへ入会し、早25年となります。

入会時を思い出しますと、RCは敷居が高い感じでした。会員名簿を手に取り、自分なりに条件(省略しますが)を決め、推薦人も自分からお願いし、当クラブに入りました。

入会後、半年もたたずに当時会長・幹事の方が退会されたのには驚きと共に、良い経験ができると思ったものです。

その後、SAA・幹事・会長を務めさせて戴き、失敗ばかりの私を支えて戴き、暖かいクラブだと思います。青少年奉仕はクラブとして、やっていかなくてはと思います。

若者を育てるのではなく、私達が育てててもらう気持ちで行動したいものです。

私の3カンは"関心・感銘・感謝"

全然成長していません、今からです。

森　陽一　会員

1999年11月入会

福岡北ロータリークラブ40周年にあたり

1999年11月に入会して早20数年が過ぎ、良いロータリアンになれたのか？利他と利己の調和ができるようになったのであろうか？クラブのために何かできたのだろうか？

入会のきっかけは先輩方が当クラブ会員であったからでしょうが、職域団体の会合も当時の例会場（セントラルホテル）を利用していたのも何かのご縁なのかもしれません。会員となるべき人徳も資質もない私にもお誘いがあり、断ればロータリークラブどのご縁は無いものと思われ、意を決し入会へと至りました。

先代は例会に行くさは生き生きとしていましたが、私には業務が忙しいのに昼日中に何をしに行くのだろう。何の役に立つだろうとも思っていました。入会にあたり「凄いところに足を踏み入れたな」　TV画面でしか出会えない方々も在籍されており、恐縮した記憶が蘇ってきます。

ロータリーを知らずに入会したものですから、「来て」「食って」「帰る」の3K会員でしたが、「ロータリーにはノーという言葉はない」と言われ、若輩の私に地区職業奉仕委員会への出向を2０周年時の村上会長・貴弘幹事（2002-2003年度）より指名されたことは鮮明な記憶として残っております。

地区への出向は自身のロータリアンとして、職業人としての方向性が定まった人生最大の岐路でもあり、地区委員会活動にも邁進する後押しをしていただきました。

ロータリー運動を自分なりに実践してきたことが、造園業界において団体会長や役員として業界の発展に寄与することもできています。春日市民功労表彰、黄綬褒章まいただくことができたのもロータリー運動に邁進した褒美だと思っております。

2003-2013年度まで地区職業奉仕委員長・委員として地区活動に勤しみ、多くの他クラブのロータリアンとの出会いがあったことは大きな財産となりました。地区委員会の同僚からガバナー（古賀PG）が輩出されたことも嬉しいことでした。会長年度はロータリー在籍20年の節目でもあり、新型コロナ感染症の始まりとも重複した忘れられない会長年度となりました。

2017年度からは地区クラブ運営支援委員会、RLI研修ＤＬ、地区RLI委員を重任させていただいています。偏にクラブから地区への出向を承認していただき深く感謝しております。

福岡北ロータリークラブの40周年を祝い、50周年を目標に、日々成長できるようロータリーを楽しみます。

鐘川　邦次朗　会員

2000年3月 入会

「ロータリーでは断ってはいけない」

入会後暫くして先輩から言われた言葉です。ロータリークラブは組織上、色々な委員会や役職があり、それを頼まれた時には「出来ませむ」と言ってはならないという意味です。

福岡北ロータリークラブに入会して20年余りになりますが、今まで出来る限り「出来ません」と言わずに、引き受けてきました。この創立40周年も或生会員、市川会員から「創立40周年記念実行委員長」を依頼された時も本当は「大変なことだ」と思いましたが「出来ませむ」と言わずに引き受けました。

今までのロータリーライフで一番大きな出来事は、2017～2018年度の国際ロータリー第2700地区・第5グループガバナー補佐を引き受けた事です。我がクラブでは金納会員が会長をされていた時に、我がクラブから次年度のガバナー補佐を出すようにガバナー事務所から依頼され人選に困っていたときに、「ロータリーでは断ってはいけない」のこで引き受けました。

しかしそのお陰で私のロータリーライフの中では本当に充実した一年間を過ごしました。

我がクラブが所属している国際ロータリー第2700地区・第5グループは親クラブの福岡城西ロータリークラブを始めとして10クラブあります。ガバナー補佐の役目は地区ガバナー(当時、安增ガバナー)の補佐をして、事前に各クラブを訪問しガバナーの年度方針を伝え「ガバナー公式訪問」を補助する事です。また第5グループの「会長・幹事会」を2か月に1回開催して各クラブの慰親を深めることが務めです。

この中で思い出に残るのは、壱岐クラブの富田会長から「会長・幹事会」は今まで一度も壱岐の島で開催されていないので是非実行してほしいと言われ、2018年5月27日に開催したことです。当日は壱岐クラブと壱岐中央クラブのお世話で、本当に素晴らしい「会長・幹事会」を開催する事が出来ました。

ロータリークラブに入会して「ロータリーでは断ってはいけない」と言われ、それを出来る限り実行し、そのお蔭で素晴らしい人たちと出会う事が出来、また人生の中での大切な思い出ができました。

最後に福岡北ロータリークラブの創立40周年をお祝い申し上げるとともに、今後も皆様に素敵な出会いが生まれることを心より祈念申し上げます。

「国際ロータリー第2700地区　第5グループ会長幹事会」2018年5月27日壱岐市

金納　健太郎　会員

2000年 12月入会

私は当クラブに入会して早22年と3ヶ月になります。

入会の紹介者は当クラブのメンバーであり又会社の上司でありました葉山会員です。

当クラブに入会して、一番の思い出では入会3年目に会員増強委員長に指名されました。

その中で当クラブの先輩や仲間の皆様の協力を頂き、年度目標を達成する事が出来ました。

入会して3年目の若い私でしたが、当クラブの皆様の温かさを肌で感じた一年でした。

今後も当クラブの発展のためにロータリーの行動基準であります四つのテストを大事にロータリー活動を行って行きます。

日下部　隆史　会員

2001年8月入会

R・C 雑 感

入会二十年が過ぎ、年齢もかなりとりましたが、何と言っても会員皆様方の元気さとか、社会に於ける御活躍や、社会貢献の姿に接する時、小生大いなる刺激を受け、自分も、もっと〜〜という気になり大変有難度く感謝致しております。

『お陰様で四十年』の年ですが、これからも末長く福岡北ロータリークラブが発展され永事を祈念致します。

井槌　浩雄　会員

2001年9月入会

例会場移転顛末

ホテルニューオータニ博多において、初めての例会が行われたのは、13年前の2010年4月9日(第1284回)のことでした。

現在の会員で、**セントラルホテル福岡(Cホテル)**の地下での例会に出席した経験がある方は、多分半分もいらっしゃらないと思いますので、移転の顛末を述べます。

福岡北RCは、冗費節約型運営の「手作りクラブ」としてスタートしましたが、時がたつにつれ、ホテルの駐車場不足(8台のみ)・老朽化・地下の環境不備(換気不良、酔客のイタズラ)・料理・・・など、不具合が多くなってきました。そのため、例会場移転についての話し合いやクラブ協議会が行われましたが、ホテル側が改善へ向けた努力をすることで移転は、中止となりました。(元会員の話:シガラミや思惑でグチャグチャになり、会員の和を優先した。)その後も不満は、噴出しましたが、その都度、**Cホテル**が改善を約束したため、例会場移転は、回避されました。

第27期執行部【白石正彦会長　井槌浩雄幹事　井上賢司S.A.A】は、例会場移転を望む多くの会員の声に応えるため、約束を履行しない**Cホテル**へ要望書を再度、手渡しました。約束が履行されない場合は、例会場移転を行う決議が、理事会でも承認されました。**Cホテル**側からの最終回答が、誠意を感じられなかったので、ある意味、無頓着な執行部は、移転へ向け迷いなく準備を進めました。

四つのホテルが、例会場誘致に手を挙げましたが、**Tホテル**と**ホテルニューオータニ博多**を優良候補としました。どちらのホテルにするか、会員間で幾度となく話し合い、最終的に公平なアンケートを行って、移転先例会場を決めることになりました。

執行部は、低予算で運営可能な駐車場完備の**Tホテル**の方が良いと思っていたのですが、『**ホテルニューオータニ博多**:40票　**Tホテル**:20票　白票:1票』と大差で、一流ホテルに軍配が上がったので、執行部として、拍手抜けしたのを覚えています。

おかげさまで、例会場移転に伴う迷会者もなく、新会員入会もスムーズになったと聞いています。**Cホテル**も**Tホテル**も無くなってしまいましたので、あの時の会員の選択が正しかったのです。

ホテルニューオータニ博多の一流なホスピタリティに感謝!!

小林 憲治 会員

2002年3月入会

創立40周年を迎えるに当たって

早いものですね。入会(2002年3月)以来満二十年(成人式)を迎えました。

四十歳と云いますと、故里(裕星郡新宮町大字湊)の地区(昔は湊村)に在る櫛津見神社では、初老賀を迎えた同年の男女が集い、村内の老若男女もお祝いに来て頂いて、共に酒、肴を囲んで賑やかに祝賀会が催され、大宴会が始まります。

懐かしいやら嬉しいやらで、公民館での大宴会は夜が更けても簡単には終わらなかったですね。まあ、四十歳での節目の行事ですもんね。

福岡北クラブは将に旧出度い節目の創立四十周年です。二十周年の時の記念祝賀会は、故萩原RAが委員長でしたかね。そして司会進行は、先日残念乍ら逝去された村上さんだったと思います。二十周年の倍ぐらい盛大で楽しく有意義な、記念すべき祝賀会になることでしょう。

3月で在籍二十年、私は成人式を迎えた感覚ですが、当クラブも四十周年で初老賀のお祝いを兼ねた節目の年になりましたね。

アルバムを開き、今は懐かしい且つてのメンバーの顔写真などを見つつ昔の思い出を楽しんでいます。台湾高雄の姉妹クラブの旧友たち、その他様々なロータリーのイベント、奉仕活動で知り得た仲間や同志と、幅広い交流、人間関係から自己実現、人間力の向上のエネルギーを頂きました。殊に、RYLA(ロータリー青少年指導力育成委員会)には地区委員として十五年間協力して毎年セミナーを開催し、各クラブから選出の若い青少年を参加させて頂き、セミナー計画を作成して毎回二日間学習して頂きました。県内のRCからの委員とは永い永い付き合いでした。大切な友人です。忘れ難き良好な刺激や感動などは特に価値ある時間と向上心を生み出し、人生の糧として残っていきます。

これからもロータリアンとして確実に可能な限り活動していく所存です。

創立四十周年を期に、新たな気概をもって対応努力を重ねて、四つのテストの主旨をモットーに奉仕致して参ります。

創立四十周年を心より慶祝申し上げます。

松﨑　裕之　会員

2002年9月入会

私がロータリークラブに入会したのは福岡北ロータリークラブ創立20周年式典が行われる年で当時の会長村上泰之氏に誘われて入会致しました。

ロータリークラブの右も左も分からずバタバタとあっと言う間に1年が過ぎ、それからも、25周年、会場移動、30周年、35周年、コロナ対策と、いつも何かテーマを探し、その目標の為大勢の人が話し合い、努力し、奉仕の心で目標を達成させる姿に感動しております。

又、創立時からのテーマでもある"木を育てるより人を育てよう"がいつの間にか20年が過ぎ自分自身が、北ロータリークラブに育てられた思いでいっぱいです。

私事になりますが、7年前に大動脈解離手術、5年前に肝細胞癌手術と、なかなかロータリークラブに接することが出来ず申し訳なく思っておりますが、今年、創立40周年式典を行う年に、私の最も大切で大変お世話になった創立20周年時の会長、村上泰之氏がお亡くなりになられました事は、私にとって複雑な思いの特別な創立40周年式典に感じております。

今後は私が、誰かの為になる人を育てようと本気で思う様になり、又私を育てて頂いた福岡北ロータリークラブには感謝しかありません。

福岡北ロータリークラブ創立40周年おめでとうございます。未来に幸あれ！

市川　清貴　会員

2003年4月入会

ー　四つのテスト　ー

福岡市内の建築設計事務所に24年勤務し、1998年に独立し事務所を持ちました。

以前より医療系の建築設計でお世話になっていた総合メディカルとその子会社であるソムテックの社長を務められた金納会員からの勧誘で福岡北ロータリークラブに入会しました。

入会前は年会費も高く感じ、かつ会員には大企業の方も多く、私のような零細設計事務所が果たして皆さんと肩を並べてやっていけるのかという不安がありでした。

私の勤めていた設計事務所の社長が故志賀信男先生で、福岡南ロータリークラブに所属されていて、会長も経験された方でした。当時、南クラブのローターアクトメンバーの増強キャンペーンに私ともう一人の所員がくじ引きで当たってしまい、ローターアクトに入会しました。いろいろな企業のトップの方がガバナーを交代で務められていてそのような方々のお話を聞くのに興味を覚えていました。しかしながらお寺の境内の掃除や「奉仕とは」等のディスカッションに、若気の至りで個人主義的な環境にいた私は、奉仕とはそんなものなのかという迷い等もあり、なんとなく馴染めず2年ほどで退会しました。

そのような経験をしたにもかかわらず、社長室の入り口の壁に掲げてあった「四つのテスト」を常に目にしていたことからか、ロータリークラブには何となくシンパシーを覚えていて、金納会員のお誘いをありがたく受けることになりました。

入会時はまさに創立20周年の記念事業の直前で、右も左もわからないまま晴れがましい式典に参加しました。

入会して5年くらいは100%出席を厳守としていた会での毎週金曜日の例会に負担感がありました。また金曜日しか打合せできない建築主の仕事を失ったこと等もありましたが、いつの日か例会を日常とした生活が身に付き、また例会以外のイベントなどに参加することで充実感や達成感も味わえ、クラブの一員としての自覚ができたような気がします。

30周年では大浦会長の下で幹事を仰せつかり、また2020～21年度の会長もコロナ禍の厳しい期間ではありましたが山田宏次郎会員の支えを受け、務めさせていただきました。

いろいろな方との出会いの楽しさ、酒席等の楽しみが私の20年間だったと思います。

ロータリーについてはまだまだ勉強できていないことが多いのですが、これからも焦らず皆さんと共に学んでいきたいと思います。

「四つのテスト」は私の席の後ろの壁に貼っています。